

社会資本総合整備計画

平成29年3月27日

計画の名称			
新たな活力を創造し、安全で快適なやまぐちのみちづくり			
計画の期間			
平成25年度 ～ 平成29年度（5年間）			
交付対象			
山口県・下関市・宇部市・山口市・萩市・防府市・下松市・岩国市・長門市・柳井市・美祢市・周南市・山陽小野田市・上関町・阿武町			
計画の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日常の暮らしを支える生活道路の整備により、快適で利便性の高い生活環境づくりを進める。 ・救急車や消防車などの緊急車両や大型車両が容易にすれ違ふことが可能な道路の整備を進め、安全で確実な交通を確保する。 ・緊急輸送道路等における防災点検要対策箇所解消により、災害時等の安心で安全な交通を確保する。 ・道の駅の休憩機能等の改善を行い、安全で快適な交通を確保する。 			
計画の成果目標（定量的指標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスや未改良箇所の整備による走行環境の改善により、各路線の移動時間の合計を21分（H29）短縮する。 ・2車線化などにより、大型車が容易にすれ違ふことが可能な延長の割合を69%（H25）から70%（H29）にする。 ・防災点検要対策箇所を有する箇所を重点的に整備することで、対象路線内の対策を0%（H25）から47%（H29）にする。 ・道の駅の休憩機能等の改善を行い、道の駅休憩機能等改善実施駅数を0駅（H25）から3駅（H29）にする。 			
定量的指標の定義及び算定式		定量的指標の現況値及び目標値	
		当初現況値	中間目標値
		(H25当初)	(H27末)
			最終目標値
			(H29末)
<ul style="list-style-type: none"> ・未改良箇所の改良、渋滞解消による旅行時間の短縮時間を算出する。 $\text{短縮時間(分)} = \Sigma(\text{現況の走行時間(分)}) - \Sigma(\text{整備後の走行時間(分)})$		0分	15分
<ul style="list-style-type: none"> ・当計画内の路線のすれ違ふ困難箇所解消率を算出する。 $\text{すれ違ふ困難箇所解消率(\%)} = \left(\frac{\text{計画内路線の改良済延長} + \text{すれ違ふ困難箇所を解消した延長}}{\text{計画内路線の延長}} \right) \times 100$		69%	70%
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路等における、防災危険箇所を期間内に解消した割合を算出する。 $\text{防災危険箇所の解消率(\%)} = \left(\frac{\text{道路整備による解消箇所数}}{\text{対象路線における事業区間内の防災危険箇所数}} \right) \times 100$		0%	47%
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の休憩機能等の改善を期間内に実施した駅を算出する。 道の駅休憩機能等改善実施駅数(駅)		0駅	3駅

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金）

交付金の執行状況

計画の名称	新たな活力を創造し、安全で快適なやまぐちのみちづくり
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度（5年間）

（単位：百万円）

	H26	H27	H28	H29	
配分額 (a)	1,050	1,644	2,781		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	1,050	1,644	2,781		
前年度からの繰越額 (d)	973	428	451		
支払済額 (e)	1,595	1,622	2,350		
翌年度繰越額 (f)	428	451	881		
うち未契約繰越額 (g)	4	0	0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越＋不用率 (i = (g+h)/(c+d))	0.2%	0.0%	0.0%		
未契約繰越＋不用率が10%を 超えている場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載

社会資本総合整備計画の事前評価

計画の名称：新たな活力を創造し、安全で快適なやまぐちのみちづくり

事業主体名：山口県、下関市、宇部市、山口市、萩市、防府市、下松市、岩国市、長門市、柳井市、美祢市、周南市、山陽小野田市、上関町、阿武町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性	
1)上位計画との整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえた計画の目標が設定されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
①目標と事業内容の整合性等	
1)目標と定量的指標の整合性が確保されている。	○
2)定量的指標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)定量的指標が分かりやすいものとなっている。	○
4)基幹事業と関連事業・効果促進事業の一体性が確保されている。	○
②事業の効果	
1)事業実施により、十分な事業効果が発揮される。	○
III. 計画の実現可能性	
①計画の具体性	
1)事業費・事業内容が適切に設定されている。	○
②円滑な事業執行の環境	
1)熟度の高い箇所が選定されている。	○
2)実施工程に則して実施期間が設定されている。	○